



水地申18号 「2021年3月ダイヤ改正」に関する申し入れ(営業関係) 2月25日(木)開催(その2)

4. 中編成ワンマン運転導入において駅での取扱い変更点を明らかにすること。

【会社回答】

お客さまのご案内や乗務員との連絡方法等に一部変更が生じるが、中編成ワンマン運転導入により駅社員の役割が変わるものではない。

【組合主張】

○車イスや白杖のお客さまのご案内はこれまで安全を考慮し、車掌前に乗車して頂いたが今後どうなるのか。

○時間帯によって複数名で出場できない場合があるがどうするのか。

○無人駅への乗り越し精算や無人駅から無人駅への乗車は後刻有人駅での精算となっているが、何をもって精算するのか。

○ワンマン運転のお客さま周知はどのようにしていくのか、現場に負担の無いように行うこと。

【会社主張】

○ワンマン運転時には運転士の後ろに乗車して頂くことになる。

○放送案内は聞こえない恐れがあるため、基本的に運転士と対面で口頭連絡を行う。

○お客さまがトイレ前などの別の車両を希望した際には、お客さまの乗車させる担当と運転士に連絡を行う担当との複数の体制で案内を行う。

○複数名で案内出来ない場合は一度運転士に連絡を行い、その後お客さまの希望している車両に案内する。

○もしくは事前に輸送指令を介して、お客さまのご案内がある事を事前に運転士に連絡を行う。

○お客さまの申告をお聞きして、精算等の対応を行っていく。

○今でも99%を超えるお客さまが正にJRを利用していると認識している。ワンマン運転になってもお客さまの利用方法は変わらない。引き続き啓蒙活動を行っていく。

○支社でポスター作成し周知を行っていく。

5. 高萩駅入区車両のドア扱い作業における教育の充実を図ること。

【会社回答】

作業に必要な教育は行っているところである。

○入・出区を行う駅ごとにドア扱い担当が違っているが基準はあるのか。

○ドア閉扉時にお客さまが乗り込んでしまった時の対応の基本はどうなっているか。

○専門知識のない駅社員がドア扱いをすることは安全上問題ではないか。

○安全を考え、専門知識を有する社員の現場への指導をするべきだ。

○ドア扱いは乗務員運用との兼ね合いでドア扱いの担当を決めている。

○駅社員が再開閉は行えないため、乗務員と連携して対応を行う。

○ドア扱いによる出発支持業務ではないため安全上問題ない。

○関係箇所への要請や設備を活用して教育を行う事は問題ない。

**施策を重視した運用ではなく、お客さまの安全や利便性を優先するべきだ！
現場からの声でさらなる検証運動を創り出していこう！**